茶の間の声を市政に

議員、市執行部を前に奮闘

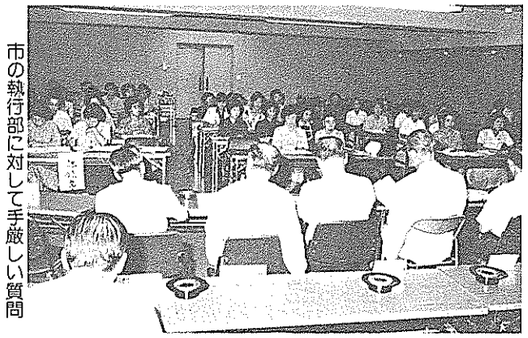
連合婦人会が市政会議

市連合婦人会（西森律会長、会員約二千九百人）の目玉行事として毎年行われている「市政会議」が八月三十日、市議、市執行部、各地区の婦人代表約五十人が参加して市役所大会議室で開かれました。

この市政会議は今年で二十三回目。婦人も市政に対する認識を深め、茶の間の声を市政に反映させようと開かれているもので、婦人会の伝統ある行事。

今年は十月に市議会議員選挙、市長選挙を控えているため、午前中は議員十六人を前にして「選挙をテーマにした質問戦」、午後は小笠原市長をはじめ市執行部に対して「行政全般にわたる質問戦」をそれぞれ展開し、婦人会独自のアンケート調査に基づく資料を携えて、議員や市執行部の考えをただしました。

午前中の議員との話し合いでは、婦人が議会を傍聴し勉強を深めていることもあって、なかなか厳しい質問をしていました。



市の執行部に対して手厳しい質問をする婦人のみなさん

その中で最も関心の高かったのは、現在三十人の議員定数について。まず婦人側から、百二十四人のアンケート調査結果では「多過ぎる」＝四三％、「わからない」＝三〇％、「適当と思う」＝二七％となっており、四三％の人が多過ぎると答えている。「この結果を議員はどう思うか」と質問を向けた。

これに対して十六人の出席議員からは「十市パークタウン、医大周辺の人口増が見込まれるので、今の議員定数は適当と思う」「議員定数の削減が民主的行政の後退になっては大変なので、慎重に検討しなければならない」と肩透かしの弁。

さらに婦人側は「議員が多過ぎるという声は、議員の質の問題を言っているのでは…」と反論の声もありました。

午後は小笠原市長、鈴江教育長、各課長に対して財政、教育、同和問題などについて質問をしました。

質問、答弁の主なものは次のとおり。

□比江山の市有地処分と今の財政状況はどのようになっているのか。

■比江山は十㌶を約十億円で木材団地へ売却した。残地が五・二㌶あり中小企業大学校の候補地にもなっているが、これを処分することに力を入れている。

財政再建は年二億円の償還計画だが、金利が増えているので残地処分をしても六十五年までかかりそうだ。

□歴史民俗資料館、文化センターの建設について見通しはどうか。

■新聞などで発表されたとおり、歴史民俗資料館は岡豊山に建設が決まり、誘致運動を進めていたのでほっとしている。規模は五―六千平方㍍、五十九、六十年度の二カ年で建設、六十一年度にオープンする計画のようだ。

文化センターの必要性はわかるが、教育施設の充実、完備が先だと思っている。今しばらく辛抱願いたい。

□青少年の非行対策について、補導状況や指導体制は……。

■補導センターでの補導件数等をみると、五十六年度では補導百四十四件、相談六十五件であったものが、五十七年度には補導一百五十七件、相談百九十三件と急増している。今年度（四月―七月）では既に補導百七十件、相談七十件となっている。

傾向は万引き、無免許、たばこ、シンナーなどが多い。また非行の低年齢化、一般化があげられる。

万引きについては、ゲーム（遊び型非行）のように思っている子供が多く、盗み（＝悪い）に対する意識の低さが目立つ。

対策については、地域ぐるみの非行防止に努める。北陵中、鳶ケ池中では「あいさつ運動」など、校下ぐるみで進めている。

□ねたみ差別への対策や、地域改善対策事業の進みぐあいはどうか。

■部落問題を頭で理解しても、肌で理解していないのが「ねたみ差別」になっていると思う。部落の実態を把握し、現実を見てほしい。実態を認識していただければ、市が力を入れている地域改善対策事業なども理解が得られると思う。今年度計画している地区こん談会などで、さらに部落問題についても啓発をしていきたい。

地域改善対策事業は五十七年度から行っている。野中地区は二十三㌶、七百二十戸（うち不良住宅五百四戸）、前浜地区は十三㌶、二百四戸（うち不良住宅百六十戸）で、両地区を五年間で約百三十億円をかけ、生活道の整備、不良住宅の改善などの環境整備をすることになっている。

しかし、実際は力を入れている割には実行がなかなか上っていないので、今後も努力していく。

□黒滝でのし尿処理が十一年目を迎えた。今だに恒久施設建設のめどが立っていないが、今後の見通しは…。

■黒滝地区のみなさんのご理解で、今日までなんとかし尿処理を持ちこたえて来た。広域処理（他市町村と共同で）との声もあるが、先方も苦労しており、またかなりの条件もあるので、今は申し入れをすべき時ではない。単独設置に変りはなく、二～三の候補地はあるが、過去の経験から慎重にならざるを得ない。

□市指定ゴミ袋の使用が守られていない。スーパーの袋や市販の袋でかまわないのか。少量のゴミ用に小さい指定袋を作ってみてはどうか。

■ゴミの袋は、市指定の袋を使ってほしい。守られていない所へは早朝出向いて行って現場で指導します。小さいゴミ袋はあまり単価は安くならないが、来年度は試作をしてみたい。

□窓口のサービスは以前よりも良くなっているが、昼休みの窓口業務はできないものか。

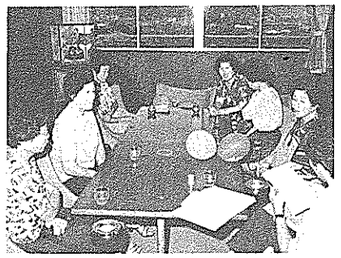
■印鑑登録など緊急の場合には、対応しているケースもある。ただ他の係との関係もあり、職員の労務管理面のこともあるので、今後検討を加えていきたい。

市執行部との話し合いは予定の時間をかなり超過するなど、熱っぽく討議が行われ、参加した婦人たちの市政に対する関心の高さがうかがえました。

講評では、ある議員から「一度に何十人もの婦人議員ができたと感銘した」とあいさつ。

最後に島内副会長が「婦人会活動を通じて明るい選挙、市政発展に尽していこう」と締めくくって閉会しました。

参加した婦人の声



感想を述べる婦人会のみなさん

今年の市政会議の印象をどのように感じたか、吉川美津さん（黒滝）、吉田綾子さん（大篠）、末政須賀子さん（日章）、下司政子さん（日章）、中橋淑さん（稲生）の五人の婦人会のみなさんに聞いてみました。

●税金が高いと思っていたが、他市と変らないことがわかった。いろんな意味で勉強になるので、もっと多くの会員の参加がほしい。

●今年は議員さん（十六人）が多く参加してくれて、みんなの意見が聞けたので良かった。活発な意見が出たと思う。

●答弁が詳しくてわかりやすかったが、核心に触れた時は、うまい具合にかわした答弁もあった。

●婦人会が問題提起をしても、それをどれだけ取り入れられているかが問題だ。出された問題点が、どれだけ一般職員に徹底されているか疑問です。

●毎年質問に出される市民課の昼休みの窓口業務は、早く実現してほしい。

「満足」わずか2％
「やや不満」35％

今年は市議選の前に「市政会議」を開いてみては――こんな意見が婦人の間で持ち上り、四月から数回の役員会を開くなど準備が進められて来た。そして、市政会議の〝教科書〟となるアンケート調査は百二十四人の解答を得、市民の意見や要望を集約した価値ある資料。

そのアンケート調査の一つに「あなたは南国市の行政についてどう感じていますか」の質問がある。答えは「やや不満」＝三五％、「なんとも言えない」＝二五％、「だいたい満足」＝一九％、「不満」＝一九％、「満足」＝二％、となっている。この結果に対する答弁が「謙虚に受け止めなければならない」だった。

市政会議も二十三回目が終った。婦人の中には「活発な意見が出た」と満足をしながらも「婦人の意見や要望が、今までどれだけ実現されているかが疑問だ」と不満に近い声もあり考えさせられる。

「久礼田、岡豊、三和地区に婦人会組織の火が消えているのが寂しい……」と、多くの婦人が言っていた言葉が印象に残った……。